

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

異なることは分ち合うこと、弱き者と

PHD LETTER
Volume
143
2020.3

公益財団法人 PHD協会
2019年度会報143号

国際協力×地域づくり

龍野



PHD Movement

たつの市地域づくり
研修プロジェクト

兵庫県 たつの市 龍野伝統的建造物群保存地区

PHD LETTER Volume.143

Contents

- P.2-5 2019年度研修生レポート
 - P.2 2019年度研修生 共通研修・研修旅行
 - P.3-5 2019年度研修生レポート:ゼンモーエー、スシラ、プットリ
- P.6 One year 2019年度国内研修生1年を振り返って
- P.7-10 **PHD Movement** vol.26
たつの市地域づくり研修プロジェクト
 - P.8 社会的投資を通じた「たつの市地域づくり研修プロジェクト」
 - P.9 たつの市龍野伝統的建造物群保存地区
 - P.9-10 川原町三軒長屋
 - P.10 緑葉社さんについて
- P.11 日々是東奔西走
- P.11 退職の挨拶 八木 純二
- P.12 PHD 活動紹介 2019年11月～2020年2月
- P.13-14 「からだに優しい仕事をつくりたい」 洋裁への情熱と母への想いを胸に
プットリさん インタビュー
- P.15 PHD News



PEACE, HEALTH&HUMAN DEVELOPMENT
公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和 Peaceと健康 Healthを担う人づくり Human Developmentをすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

PHD LETTER 143号

発行：公益財団法人PHD協会
住所：〒650-0003 神戸市中央区
山本通4丁目2-12 山手タワーズ601
電話：078-414-7750
FAX：078-414-7611
E-mail：info@phd-kobe.org
URL：http://www.phd-kobe.org
郵便振替口座：公益財団法人PHD協会
01110-6-29688

表紙写真/龍野重要伝統的建造物群保存地区に立つ研修生たち(左より横原さん、プットリさん、スシラさん、ゼンゼンさん、山本さん)

～ 奉仕する者こそが最も恵まれる ～

温故知新 岩村語録 その18



岩村昇先生
1982年5月15日発行のPHD LETTER第1号に使用された写真。

私の小さな経験を通してでもつくづく感じさせられたことは、奉仕させられる時に一番深い恵みと祝福にあずかることができるということです。そういう経験を、特に今の若い日本の青年たちが、苦しさにも耐えて、根気を強くしていただきたい。奉仕する者こそが最も恵まれるのだという、そういう喜びに満ちた前途に進んで行っていただきたいと思いますね。

海外奉仕というのは、そういう意味で、送り出される者が恵まれ、送り出している人々が恵まれるものであって、そういうことによって立派な証しができて行くものではないかと思うのです。

「出典：ネパールに生きる - 岩村昇対話集 - 笠岡輝昭編(1967年) P.81」

岩村先生が作られた「恵まれ合うコミュニティ」であるPHD協会、もうすぐ40年(さ)



左からプットリさん(インドネシア)、スシラさん(ネパール)、ゼンゼンさん(ミャンマー)。西日本研修旅行 北九州市祝町小学校交流会にて。

PHD 2019年度研修生レポート

山本 健太郎 = 文

スシラさん(ネパール)、プットリさん(インドネシア)、ゼンゼンさん(ミャンマー)は日本での研修を終え、3月10日・11日に無事それぞれの国へ帰りました。波乱万丈な一年でしたが、研修先でお世話になった方々、支えていただいた皆さまとの出会いが彼女たちの頑張る原動力となりました。日本での学びをもとに、彼女たちが考える村の課題とその解決に向けた活動計画をまとめました。皆さまへ感謝を込めて2019年度研修生のレポートをお届けいたします。

2019年度10月～2月の共通研修

- ・生活協同組合コープこうべ 全2回
(神戸市・三木市/協同組合)
- ・高藤真理さん 全2回
(神戸市/口腔衛生・防災研修)
- ・旅路の里 (大阪市西成区/釜ヶ崎社会学習)
- ・PHD協会 (神戸市/行動計画づくり)
- ・山口勝弘さん(南あわじ市/果樹栽培)
- ・淡路島モンキーセンター
(洲本市/残留農業とリーダーシップ)
- ・浜地歯科医院 全1回
(神戸市/口腔衛生)



2019年度 研修旅行報告

東日本研修旅行 10月24日～11月1日

- ・東京都 全日本自動車産業労働組合総連合会、ユニセフハウス、ロータリー米山記念奨学会、日本労働組合総連合会
- ・山梨県 山梨英和中学校(YWCAひまわりクラブ)、山梨YMCAグループ
- ・長野県 塩尻めぐみ幼稚園、松本教会
- ・神奈川県 青空自主保育なかよし会、山崎谷戸の会
- ・岐阜県 国際ソロプチミストかかみ野
- ・愛知県 椋山女学園大学付属小学校、トヨタ自動車労働組合、想念寺、小牧幼稚園

西日本研修旅行 1月11日～24日

- ・鹿児島県 かごしま有機生産組合、出水高等学校、だるま保育園、蔵島小学校
- ・熊本県 水俣病センター相思社、エコネット水保、ほっとはうず、ガイアみなまた、菊池恵楓園

- ・福岡県 北九州市交流会(旭ヶ丘会館)、祝町小学校、到津の森公園、世界平和パゴダ、アジアを考える会北九州
- ・山口県 梅光学院高等学校・中学校、岩国みなみワイズメンズクラブ、岩国YMCA国際医療福祉専門学校
- ・広島県 広島平和記念資料館、共生庵、みらさか小学校、三次市交流会(灰塚コミュニティセンター)、庄原保育所
- ・岡山県 YMCAせとうち、岡山市交流会(新天地育児院)



PTD 2019年度研修生レポート

ゼンゼン (ゼンモーエー) ミャンマー / 25 歳

楽しい教室づくり、より良い学校づくりがしたい

ゼンゼンさんが働く学校では図書館の蔵書数が減っています。原因は管理システムが無いことにあります。日本での教育研修を通じ、様々な本や教材を使った教え方に触れ、子どもたちが学びたいような授業方法を学びました。子どもたちが本を手に取り、様々な教科と分野に興味を持つためにも、図書館の整備は欠かせないと考えています。帰国後は図書館の本の管理方法を先生たちに共有するところから始めます。

また、ミャンマーでは学校の方針や活動について、親たちの理解が不足しています。ゼンゼンさんは日本の学校の家庭訪問や懇談の制度を参考に、先生が親たちと話し合う機会を作り、学校の方向性や課題、イベントについて共有するとともに、親から家庭事情について聞くことで相互理解にも繋げたいと思っています。

これらの課題を解決し、より良い学校づくりのためゼンゼンさんの挑戦が始まります。

11月～3月末の研修

愛徳学園中等学校 (神戸市/中等教育)
淡路市立志筑小学校 (志筑市/初等教育)
滞在: 石上りカさん
神戸市立本山中学校 (神戸市/特別支援学級)
三木市総合保健福祉センター
(三木市/保健衛生)
三木市総合隣保館 人権推進課(三木市/人権)
滞在: 四方和子さん、前田晴秀さん、和代さん



愛徳学園中等学校にて、図書館の本の管理について学ぶゼンゼンさん。



「楽しい教室づくり、より良い学校づくりがしたい」(兵庫県たつの市にて撮影)



わたしの りょうけん かんごうの めいどい
は じつじょうに ほんが ぐんないでず。
かんごうから こじもが ほんを がりて
かんじないから、ほんが なくないま
が かんごうで こじもが おおくて、
せんせいが たりないから、じつじょうの
マネツソソトを せま せんせいに
たはま じぶんが マネツソソト
トリーニソワへ いはたこじもがないから、
マネツソソト する こじも かわりませぬ
わたしの マネツソソトを かわって、
わたしの かんごうの せんせいたちに
はほんで まなれたこと (せうじょうの
うんたい、おしなれた、せうじょう)

の つくりがた、せんせいとこじもとの
コミュニケーション、せんせいとおや
の コミュニケーション、けんごう、
えいようのこと) せんせいを せんで
こじもたちの ために しんせいに
かんばりたいです。わたしの かんごうの
こじもたちを はほんの こじも
せいに いろいろな べんせいが
できるように かんばりたいです。
わたしの かんごうで たいいく、
ずこう、がていふ ないから、わたし
おしなれたです。かんごうと じつじょう
のために せんせいたちに
マネツソソトの トリーニソワを せんせいに
したいです。
ゼンモーエー
ミャンマー

PTD 2019年度研修生レポート

スシラ・バセル・サルキ ネパール / 23 歳

子どもたちの健康のために、有機農業の大切さを伝えたい

スシラさんの村では子どもたちの健康に課題があります。彼女は農業を通してできる健康な体作りが、課題解決の糸口になる



ぼかしづくりについて学ぶスシラさん。(豊岡市のてらだ農園さんにて)



「子どもたちの健康のために、有機農業の大切さを伝えたい」(兵庫県たつの市にて撮影)

と考へます。日本の保育研修では子どもたちが育てた有機野菜を収穫、それらを使った栄養価の高い食事作りを学びました。また、栄養の勉強や離乳食作りにも挑戦。子どもの健康を大切にするとともに、子どもが農業や栄養について学べる「食育」を知り、村でも実現したいと考へました。一児の母である彼女だからこそ、村の女性に伝えられることがあります。

農業研修で学んだ土づくりや肥料の知識を生かし、彼女自身が農業に頼らない農業を始めて、体に良い農作物を作り、有機農法を村の人々に伝えていきたいと考へています。

11月～3月末の研修

寺田まさふみさん
(豊岡市/稲作、野菜、炭素循環農法)
兵庫人権会館 (神戸市/人権)
部落解放同盟 伊丹支部 (伊丹市/人権)
伊丹市立人権啓発センター (伊丹市/識字教育)
滞在: 池田千津美さん
三木市総合保健福祉センター
(三木市/保健衛生)
三木市総合隣保館 人権推進課(三木市/人権)
滞在: 今西廣子さん
わくわく保育園 (尼崎市/人権、保育)

私の村ではのりょうけん いちず、ごせ かんご うがたて
のりょうけん いちず。わたしは日本でのりょうけんのこと
を べんせいした。のりょうけんの中に ほんが、ジュネスト、じせ
いぶつ、土の えいようのこととが、わたしのまがたを べんせい
しました。のりょうけんを せんで わたしの 人たちは じ
よに かんご、かんごを しんせいに したいです。のりょうけんを
ほくせいせいの ことは かんごの ために べんせいした
のりょうけんを せんで かんごを せんで たいがが かんご
けんごを かんごが たいがが たいがが たいがが
は かんごです。ごせ わたしの 人たちは 子どもの ために かんご
のりょうけんを せんで かんごの ために かんごの ために
わたしの 人たちは かんごの ために かんごの ために
わたしの 人たちは かんごの ために かんごの ために
わたしの 人たちは かんごの ために かんごの ために
わたしの 人たちは かんごの ために かんごの ために
わたしの 人たちは かんごの ために かんごの ために

と男性のせいのせいで日本でもさべつ あり
けい かんごの ために かんごの ために かんごの ために
わたしは かんごの ために かんごの ために かんごの ために
わたしは かんごの ために かんごの ために かんごの ために
わたしは かんごの ために かんごの ために かんごの ために
わたしは かんごの ために かんごの ために かんごの ために
わたしは かんごの ために かんごの ために かんごの ために
わたしは かんごの ために かんごの ために かんごの ために
わたしは かんごの ために かんごの ために かんごの ために
わたしは かんごの ために かんごの ために かんごの ために

スシラ・バセル・サルキ
ネパール

PHD 2019年度研修生レポート

プットリ ダリア
インドネシア / 22歳

健康を大事に考えて、
村の女性のために仕事を作りたい

プットリさんの懸念は村の女性の健康です。村の主要産業である農業は手作業や力仕事が多く、妊婦や高齢女性にとって体に大きな負担がかかります。しかし、農業以外の仕事が村にはありません。プットリさんは村には知識や経験がないために、新しい仕事が生まれないと考えます。彼女は日本で学んだ洋服や小物類の作り方を村の女性グループに教えるところから始めて、新たな仕事づくりに取り組みたいと意気込んでいます。ただ単に教えるのではなく、村の女性たちとのコミュニケーションと個人の思いを大切に指導したいと思っています。そのためにお母さんたちに洋裁を基礎から教える計画を立てています。

他にも病予予防や栄養、健康管理についても女性たちや子どもたちに教えます。「村の人たちと一緒に作り上げる健康的な生活」の実現に向け、プットリさんが新たな一歩を踏み出します。

11月～3月末の研修

ステップハウス(高砂市/ハンディキャップガイド)
前田弘子さん(高砂市/洋裁)

滞在：神吉泰彦さん、道子さん

赤坂真砂さん(神戸市/洋裁)

畑中トキ子さん(尼崎市/洋裁)

三木市総合保健福祉センター

(三木市/保健衛生)

三木市総合隣保館 人権推進課(三木市/人権)

滞在：中和美佐乃さん、中村憲子さん

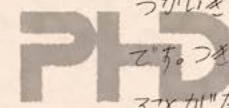


栄養価の高いご飯作りに取り組むプットリさん。(三木市総合保健福祉センターにて)



「村の女性のために仕事を作りたい」(兵庫県たつの市にて撮影)

私の村の女性には健康が心配です。村の主要産業である農業は手作業や力仕事が多く、妊婦や高齢女性にとって体に大きな負担がかかります。しかし、農業以外の仕事が村にはありません。プットリさんは村には知識や経験がないために、新しい仕事が生まれないと考えます。彼女は日本で学んだ洋服や小物類の作り方を村の女性グループに教えるところから始めて、新たな仕事づくりに取り組みたいと意気込んでいます。ただ単に教えるのではなく、村の女性たちとのコミュニケーションと個人の思いを大切に指導したいと思っています。そのためにお母さんたちに洋裁を基礎から教える計画を立てています。



研修兼広報担当

山本 仁美

去 年の今頃は、私がこんなにPHDの事が頭から離れなくなっているとは思いませんでした。それは一年間、国内研修生として、普通ではできないような経験をさせて頂いたからだと思います。今思い返すと、研修生と共に笑い、泣いた日々が鮮明に思い出されます。村の為に、自分の為に様々な葛藤と苦難を乗り越える研修生。一人の人間が自ら自分の殻を大きく破る瞬間を見ることが出来ました。これこそが、PHDの人材育成ののだと感じました。そして、研修先で日本の社会問題について勉強していく中で、その中核に辿り着いた時、様々なことが見えてきました。日本が今後どうなっていくのか、次世代を担う私たちの問題でもあり、私たちが解決していかなければいけないのか、そして自分自身がどんな大人になっていくのか楽しみであり、不安です。

最後にPHDでは「豊かさ」の意味とは「人が互いに助け合い、思いやることの大切さ・素晴らしさである」と教えて頂きました。これは私の人生の指針にもなりました。支援者の皆様、そしてPHDの皆様、一年間、本当にお世話になり、ありがとうございました。

(右下写真 右)

研修兼広報担当

榎原 杏菜

PHDの国内研修生の中で、多くの気づきを得て、自分自身大きく成長できたと思います。普通に大学生をしているだけでは学ぶことができなかった貴重な体験をさせて頂きました。研修生たちと共に、日本が抱える差別のことや教育について勉強し、日本の問題に目を向けることが多かったです。またPHDを支援してくださっている方々の優しさにたくさん触れました。ネパールへ行った際には昨年度の研修生サビナさんに会い、村の為に頑張っているところを見ると、胸が熱くなったのを覚えています。この一年間色々なことがありました。笑いあい、時には泣いて、大変なことも乗り越えてきた研修生たちは私にとって本当に家族のように大切な存在です。村に帰りそれぞれの課題がありますが、彼女たちならば、どんな困難も乗り越えていけると信じています。研修生たち皆、それぞれの道に向かって歩いていきますが、私もこの経験を活かし、これからも日々成長していけるよう頑張ります。皆さま、一年間本当にありがとうございました。(右写真 左)



PHD Movement vol.26

社会的投資を通じた 「たつの市地域づくり研修プロジェクト」

事務局長 坂西卓郎 = 文
～分かち合い実践録～

2019年9月、PHD協会は兵庫県たつの市の龍野伝統的建造物群保存地区の古民家「川原町三軒長屋」を同市の市民出資による不動産会社である緑葉社より購入した。これにより同地区の歴史的景観を活用した地域づくりに参加する。今回のPHD Movementでは「国際協力と地域づくりのコラボレーション」という、当会の新たな活動について説明したい。

財団法人とは？

今更であるがPHD協会は公益財団法人という法人格をいただいている。ウィキペディアによると「財団法人とは、法人格を付与された財団のことであり、ある特定の個人や企業などの法人から拠出された財団（基本財産）で設立され、これによる運用益である金利などを主要な事業原資として運営する法人」とある。

当会は今井鎮雄初代理事長はじめ皆様のご尽力で基本財産及び特定資産を約3億円積み立てることができた。今井元理事長の戦略としては、「3億を6%で運用すれば1,800万円、これを軸に運営する」というものだった。しかしながら、2008年のリーマンショックを境に運用益が減少し、今の低金利時代では良くて1～2%。つまり以前と比較すると1,200～1,500万円の減益となっている。そこを節約や皆さんのお支えでなんとか乗り切っているが、近年の経営苦境の源泉はここからきている。

社会的投資とは？

投資の中身も重要である。いくら運用益が良いと言っても社会的に課題のある企業や政府に投資をして、その運

用益で国際協力を実施するというのは倫理的に正しいのだろうか。

そういった悩みへの回答として社会的投資という概念がある。古くは米国における教会の資産運用からたばこやアルコール等の関連企業を除外する動きが発祥と言われており、まとめると「教育や福祉などの社会的な課題を解決しながら経済的な利益も生み出す投資行動」（日本財団）と言われている。

たつの市での市民出資の輪に参加

当会も社会的投資に舵を切りたいと常々思っており、実際にインドネシアの組合への投資などいくつかの試みをしてきた。その中で結実したのが、たつの市での古民家購入を通じた「国際協力と地域づくりのコラボレーション」である。今回のパートナーである緑葉社では「主体的市民に支えられる市民出資」を展開しており、そこに公益法人の社会的投資として参画する。

公益財団法人として「行政主導ではなく、市民による主体的なまちづくりを行う。大株主を作らないことで公平なまちづくりも意識する」という好循環に寄与し、新しい可能性を提示する。もちろん投資を通じてまちづくりの活性化に貢献することも意図している。

研修生が龍野から学べること

一方、当会の研修生は新しい局面を迎えている。研修生個々の生活を超越して、地域全体をどのように「良く」していくか、地域全体をカバーした活動が必要なステージに到達した。その方向性は多様であるし、研修生や村の人たち自身が決めていくというのが当会

の方針だ。その視野を育むために龍野の人たちの活動や歩みから学ぶ、そして社会的投資をして活動資金も得るとするのが今回の中心的な目的である。

特に緑葉社では単なる経済的な振興だけでなく「真の街並み保存は、暮らしや文化を引き継ぐこと」をテーマに掲げており、研修生たちの目指す方向性、歩みに直接的に繋がる。

たつの×皮革×ダリット×ネパール

より具体的には皮革産業がある。たつの市では地場産業として皮革産業を長く育てており、全国一位の生産量を誇る。また部落差別に関しても部落差別解消推進法に関連する条例を2018年に全国初施行するなどの取り組みを行っている。皮革産業と差別問題という構図は近年招聘しているダリットの研修生の状況と同じである。今回の古民家には龍野レザーの店舗も参加しており、この点でもシナジー効果が期待できる。

全国初の取り組み？

神戸新聞地域ページ（西播：2月17日、神戸：3月14日）に本取り組みを掲載していただいた（P9に掲載）。重要伝統的建造物群に公益法人の資金を活かすという取り組みは全国的にも珍しいようだ。

地域づくりの利益が公益法人の国際協力活動に活用される、善意の資金循環の輪が完成した。今後は研修生の学び、龍野の人たちとの交流を通じて、中身を創っていききたい。

P7写真/PHD協会が大家となる店舗「川原町三軒長屋」の前で記念撮影をする研修生。

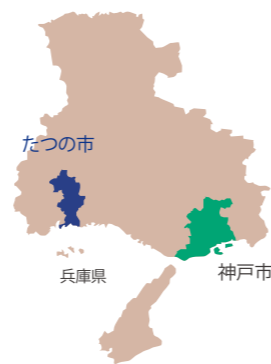
龍野

たつの市地域づくり研修プロジェクト

兵庫県たつの市 龍野伝統的建造物群保存地区の古民家を購入

揖保川沿いに出雲街道が通る交通の要衝として栄えてきた兵庫県たつの市。今でも同市龍野地区には昔ながらの商家や土蔵が建ち並んでいます。PHD協会は同地区の古民家を購入し、こうした歴史的景観を活用した地域づくりに参加します。そして、地域活性化を学ぶ研修プロジェクトなど、「国際協力と地域づくりのコラボレーション」という新たな活動を展開します。

八木 純二 = 文・編集



PHD Movement

たつの市
龍野伝統的建造物群保存地区

龍野城の城下町として発展した兵庫県たつの市は、揖保川の豊富な水を利用し、淡口醤油や手延べ素麺などの地場産業が発展しました。同市の龍野城下に広がる「たつの市龍野伝統的建造物群保存地区（龍野伝建地区）」は、2019年12月23日に国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に選定されました。重伝建地区とは市町村が条例で定めた伝統的建造物群保存地区のうち、特に価値の高い地区を文部科学大臣が選定したものです。龍野伝建地区には地場産業で栄えた商家やその土蔵、加えて城下町らしい武家屋敷が建ち並び、重伝建地区に選定されるに相応しい歴史的景観のあるまちとして、「播磨の小京都」とも呼ばれています。

現在、龍野伝建地区には伝統家屋を利用したカフェや地場産業の小売店が点在し、多くの人が訪れています。その一方で地区は落ち着いた雰囲気を保っており、地域の人々の暮らしとの調和のとれた地域づくりが図られています。



上写真/龍野伝建地区には近世から昭和初期に建てられた黒壁の土蔵や土塀のある家屋が立ち並び、右写真/PHD協会の「たつの市地域研修プロジェクト」を伝える記事。(2020年2月17日神戸新聞西播磨版)



地域づくり
研修プロジェクト

緑葉社さんについて

暮らしや文化を未来に引き継ぐ会社



緑葉社は2006年に設立された龍野城下町を中心とした市民出資による不動産会社です。PHD協会は同社に地域づくり研修プロジェクトのパートナーになってもらいました。

緑葉社は2006年にまちづくりに取り組む有志により立ち上げられた市民出資による不動産会社です。同社の所在地である龍野は戦乱や大きな開発の荒波をのがれ、江戸時代から今日までその美しい景観を保ってきました。緑葉社はその龍野の風土・風習・文化を継承した地域の活性化に取り組み、やみくもな観光開発に走ってその価値を毀損してしまうことのないよう事業を展開しています。単なる不動産会社やデベロッパーとしてではなく、同社は龍野に本拠を置く地域社会の一員としてまちづくりに貢献しています。

こうした取り組みを支えるために、緑葉社では無軌道な開発に走らないよう、経営陣全員の持ち株を合わせても支配権のある比率には到達しない市民出資方式を

採用しました。同社はこの仕組みを通して、多くの市民が主体的にまちづくりに参加することを目指しています。一見すると、これはまどろっこしい仕組みのように見えるかも知れません。しかし、美しい景観を守ってきたその担い手は龍野の市民です。それゆえ、緑葉社ではこの市民出資方式にこだわっているのです。

緑葉社という社名は大正時代に龍野で興った市民による文化啓蒙運動の結社からとったそうです。当時の“緑葉社”は龍野の青少年の健全育成に関する活動を展開していました。この郷土への想いを後世に繋いでいくことが現在の緑葉社の社名の由来です。同社の龍野のまちづくりに対する姿勢や想いが垣間見えるでしょう。



改装中の店舗「川原町三軒長屋」(2019年6月撮影)

株式会社 緑葉社



<https://ryokuyosha.co.jp/>



川原町三軒長屋

三軒長屋を改装した複合商業施設。三軒長屋特有の間取りの制限を逆手にとって、共有中庭デッキや共有通路を配置することでユニークな施設となった。現在は3店舗が営業を開始。将来的には5店舗になる予定。たつの市が運営する川原町観光駐車場の近くに位置し、コア施設として城下町の南エリアの玄関口となる。

カワラヤ

淡口醤油、手延べ素麺、龍野レザーなど、川の恵みに育まれた龍野を中心



カワラヤ

とした播磨の特産品や醤油を使った甘味をお届けする土産処。たつの市が整備した醤油の郷大正口マン館にて営業する「クラテラスたつの」の姉妹店。



店内には各種薄口醤油やボン酢などが並ぶ。



心

地元の食材、龍野の醤油等を使用した本格江戸前寿司屋です。宍粟市で「心」の店主藤原さんが龍野城下町へ移転オープン。オープン当初からランチが人気で、予約なしでは入店できないほどの人気店。



川原町三軒長屋の玄関から中に入ると、「心」の看板が現れるので、そこが自印。

咲庵

本場台湾仕込みのタピオカドリンクや豆花が楽しめる台湾スイーツカフェで、レザー製品や藍染め作家の作品を扱うショップでもある。イベントとして作家を招いてクラフトワークショップも行っている。ルーロウハンや台湾風オムレツなどの週替わりランチが人気。



「咲庵」店内の様子。

PHD Movement

日々是 東奔西走

研修担当
山本健太郎

ハラバラの女性たちと共に
「スシラさんの
諦めない気持ちと根性」

有機農業を通じて子どもたちの健康の向上を目指すスシラさん。彼女が日本で学んだもう一つの大きな研修テーマとして、「人

権」が挙げられます。彼女が所属する「ハラバラ」という村の女性グループのメンバーは、ダリットと呼ばれるカースト制度最下層の人たちから成り、今なお生まれや職業に基づく差別を受けています。また性差別も存在し、ダリットの中でも女性というだけで、教育機会からも排除されてきたケースもあります。実際にハラバラには読み書きができる人がスシラさん、昨年度研修生サビナさんを含めて、35人中3人しかいません。

日本では主に神戸市と伊丹市で人権について勉強したスシラさん。過去に非識字者だった方とお話する機会を頂き、苦労や経験聞きながら、日本にもネパールと似た問題があることに驚いていました。「私は友だちを作りたい。だから読み書きを頑張りたい」という

言葉を聞き、「何かを学ぶのに年齢も性別もカーストも関係ない。みんな一人一人夢やゴールがあって、頑張りたいという気持ちがある。この気持ちは自由です」とスシラさんは力強く語ります。

諦めない気持ちと根性が信条のスシラさん。帰国後は36期研修生サビナさんとともに、農業や識字を中心にハラバラの女性たちに教えていきたいと考えています。「私たちに力は無いかもしれない、でも決してゼロじゃない」と語るスシラさん。彼女の新たな挑戦を私たちが応援していきます。



帰国後の活動について力強く語るスシラさん。

退職の挨拶

八木 純二

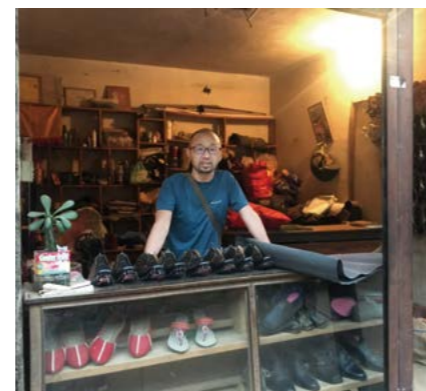
2016年4月にPHD協会に広報・啓発担当として入社して4年。ネパール、インドネシア、ミャンマーから来た当会の研修生12人をはじめ多くの方々に会うことができました。会員、支援者、指導者の皆さま、そして同僚、国内研修生、ここで出会ったすべての人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。研修生たちのコミュニティへの真摯な想いとそれを支えるPHD運動に参加する人々の想いは、草の根の国際協力の真の価値を私に教えてくれました。生きることの美しさと儚さ、そして世界に満ちる喜びと哀しみを自分の内において実感し、ともに生きる人々と共有する。PHD協会で学んだことは計り知れません。

加えて、PHD協会での経験は私に国際協力の世界で生きていく自信を与えてくれました。2012年の終わりに思いがけ

ずNGOで職を得たのが、私の国際協力の第一歩です。そして、ほぼ偶然この世界に飛び込んだということもあり、今ひとつ自分の仕事として自信がないまま任期が終了、前職を退職しました。続いて入社したPHD協会では担当の広報・啓発の職のみならず、NGOワーカーとして多くの経験をより自覚的に積ませてもらったと思います。この経験は今後も国際協力の世界で生きていけるという自信につながりました。そしてPHD協会ですごした学びと自信を胸にこの春旅立ちます。

私は4月よりカンボジアのタイ国境の街パイリンに国際協力NGOのスタッフとして赴任します。現地では青少年教育支援事業に携わることになりました。PHD協会で学んだ草の根の国際協力をカンボジアの地で活かせるように精一杯頑張ります。

この4年間、ご指導いただいた皆さま、本当にありがとうございました。今後ともPHD協会と研修生をご支援のほどよろしくお願いたします。またアジアのどこかで、世界のどこかでお会いできることを楽しみにしています。



ジドゥルボカリ村女性グループ「ハラバラ」の代表の靴屋で店番中の八木。(クンタペ:ネパール)

PHD 活動紹介 2019年11月～2020年2月

11月	21日	広報・啓発担当職員募集説明会 (坂西、八木、濱)	
4日	市民活動センター神戸 会員集会 (坂西)	川西ロータリークラブクリスマス例会 (濱)	
	神戸親和女子大学 卒論指導 (坂西)	23日	のぞみ保育園 交流会 (芳田)
	今井鎮雄 初代理事長 召天日		2020年度計画策定会議 (坂西、八木、山本、中村)
7日	伊丹ロータリークラブ 卓話 (坂西)		広報・啓発担当職員募集説明会 (坂西、八木)
10日	ロータリー米山記念奨学会 日本文化セミナー (濱)	25日	PHD協会 大掃除 (全員)
11日	大阪女学院短期大学・大学タイスタディツアー事前授業 (芳田)	26日	ESD事業計画ワークショップ (八木)
	緑葉社畑本代表と協議 (坂西)	27日	ミャンマー出張 ～1月3日 (山本)
	雇用助成金説明会 (中村)	28日	中野宗嗣さん、餅つき (坂西、中村)
12日	定例スタッフ会議 (坂西、八木、山本)	1月	
	半期振り返り会議 (坂西、八木、山本、中村)	2日	草地賢一 初代総理事 召天日
14日	奈良育英西高校 講演:NGO相談員 (芳田)	8日	PHD協会 財務委員会 (坂西、中村)
15日	神戸親和女子大学 講演:NGO相談員 (坂西)		篠山ロータリークラブ新年例会 (濱)
	青少年会館説明会 (中村)	9日	HYOGON 賀詞交歓会 (坂西、中村、濱)
	エフエムわいわい日比野理事と協議 (坂西)		広報・啓発担当職員募集説明会 (坂西、八木)
	川西ロータリークラブ例会 (濱)		加古川中央ロータリークラブ新年例会 (濱)
	証券会社 協議 (坂西、中村)	10日	川西ロータリークラブ例会 (濱)
16日	大阪YMCA Ylab	17日	阪神・淡路大震災 25年メモリアル
17日	ネパール祭り:NGOネパール虹の家主催 (山本)	19日	NGO/NPOキャリアセミナー (八木)
18日	関西学院高等部 礼拝&WWL授業:NGO相談員 (坂西)		ガールスカウト兵庫県第24団 街頭募金 (山本)
20日	NPO広報講座 (中村)	22日	インドネシア出張 ～27日 (坂西、濱)
	篠山ロータリークラブ例会 (濱)		小林税理士往査 (坂西、古寺)
21日	NGO相談員会議 ～22日 (坂西、中村、酒井)	24日	JOCAキャリア形成セミナー:ビデオ会議参加 (山本)
23日	伊丹ロータリーサンクスギビングパーティ (坂西)	25日	タイスタディツアー説明会 (芳田、酒井)
26日	明石城西高校 講演 (山本)	27日	関西NGO-JICA協議会 (坂西)
27日	国際高校 講演 (山本)	28日	大阪府立渋谷高等学校 講演:NGO相談員 (芳田)
	岩村昇 PHD運動提唱者 召天日	30日	プラスONEネット訪問 (坂西)
28日	加古川中央ロータリークラブ例会 (濱)	31日	定例スタッフ会議 (坂西、八木、山本、中村)
29日	本山中学校 文化発表会 (山本)		関学WWL事業 運営指導委員会及び検証委員会 (坂西)
	アジア福祉教育財団難民事業本部 訪問 (坂西、中村)	2月	
30日	一般・公益法人勉強会 (坂西、中村)	1日	ワンワールドフェスティバル:NGO相談員 ～2日 (中村、古寺)
	第21回NGOスタディツアー合同説明会:NGO相談員 (坂西、八木)		アジア生協協力基金プレゼンテーション審査 (坂西)
12月		4日	PHD協会運営協力委員会、評議員会、理事会
2日	HYOMIC会合 (坂西)	5日	神戸NGO協議会 (坂西)
4日	多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー打ち合わせ (坂西、中村)	6日	JICA関西協議 (坂西、酒井)
	ファシリテーション研修:講師中田豊一氏 (全員)		加古川中央ロータリークラブ例会 (濱)
5日	ワンワールドフェスティバルForYouth運営委員会 (坂西)	7日	HYOGON会議 (坂西)
7日	居住支援セミナー (坂西、中村)	8日	広報・啓発担当職員 採用面接
8日	神戸YMCA国際協力街頭募金 (坂西、山本)	10日	龍野伝地区「川原町三軒長屋」プレスリリース (坂西、八木)
12日	定例スタッフ会議 (坂西、八木、山本、中村)	13日	明石東ロータリークラブ 卓話 (坂西)
	消費税に関する勉強会 (坂西)	14日	タイ出張 ～22日 (坂西)
13日	西浦小学校 講演:NGO相談員 (坂西)	16日	加東市連合婦人会:報告会 (山本)
	東奈良小学校 交流会 (山本)	17日	第36回タイスタディツアー ～26日 (坂西、芳田、酒井)
	広報・啓発担当職員募集説明会 (坂西、八木)	19日	篠山ロータリークラブ例会 送別会 (濱)
15日	ワンワールドフェスティバルForYouth:NGO相談員 (坂西)	20日	シルバーカレッジ講演・報告会 (山本)
16日	部落解放同盟兵庫県連合女性部 交流会 (山本)	21日	川西ロータリークラブ例会 送別会 (濱)
	はりまソーシャルミーティング (坂西)	26日	定例スタッフ会議 (坂西、八木、山本、中村)
	プラスONEネット訪問 (坂西)	29日	帰国報告会
17日	阿弥陀小学校 交流会 (芳田)		
18日	広報・啓発担当職員募集説明会 (坂西、八木)		
	篠山ロータリークラブクリスマス例会 (濱)		
	わたしたちの難民問題 (坂西)		
19日	兵庫県ユニセフ協会 評議員会 (坂西)		
	加古川中央ロータリークラブクリスマス例会 (濱)		
20日	PHD協会 役員懇親会		

2020年は阪神・淡路大震災から25年目です。発災した当日の1月17日には神戸市及び兵庫県内各所で犠牲者の節目の追悼が行われました。(追悼は毎年行われています。)





野良仕事の休憩をとる農家の女性たち。(インドネシア西スマトラ州タランバング地区)

REPORT

「からだに優しい仕事をつくりたい」

洋裁への情熱と母への想いを胸に：プットリさん インタビュー

坂西 卓郎 = 聞き手 中村 朱里 = 編集

いつも周りの人たちへの気配りを忘れず、研修にも熱心に忍耐強く取り組むプットリさん。彼女の強さと優しさの根源はどこにあるのか。自身の生い立ちや母親への想い、帰国後の夢について聞きました。

貧しい子ども時代

Q.子どもの時、どんな苦勞があった？
プットリ(以下プ)：7歳の時に父が病気で亡くなった。父は山で木を切り出す仕事や田んぼ、牛の世話をしていたが、父が亡くなってからは、母が農業をして私たちを育ててくれた。農業の収入は1日500円くらい。生活は毎日苦しかったし、学費などのお金も足りなかった。

Q.学校にはどのくらいお金がかかる？
プ：私たちは5人兄弟なので、みんなが学校に行くと、すごくお金がかかる。例えば、高

校生の学費は1カ月に350円～450円くらいで、他にも制服や教科書、試験を受けるのにもお金がかかる。試験のお金が払えない時は、先生に泣きながら支払いの約束をして、試験を受けさせてもらう。それでも払えない時は、他の生徒の前で「いつも後で払うと言うけど、なかなか払わない。いつ払うの!」と怒られる。

インドネシアは給食がないから、子どもたちは毎朝お金をもらって学校に行き、そのお金で昼ご飯を買うことが多い。昼ご飯は20円くらい。でも、そのお金がなくて、昼ご飯は水だけ、パン一つだけということもあった。私や姉はお金のことが心配で「自分たちは大丈夫だから、弟や妹にあげて」と母に頼んでいた。

Q.学校での勉強はどうだった？
プ：小学校の成績は学年で1番から3番くらいだったけど、中学生の時、仕事を始めたことで



少しずつ勉強ができなくなっていった。兄弟5人が学校に行きたいけど、昼ご飯代やノートを買うお金もない。この頃、お母さんはよく泣いていた。それをいつも見ていたので、学校でもそのことを考えて、勉強に集中できず、成績が悪くなっていったと思う。

Q.お母さんに対してはどういう気持ち？
プ：貧しくて辛いから、母に悪いことを言ったこともある。兄弟で私が一番悪い子だった。中学の時は、私も他の人の畑で働いたりした。それで、こんなに大変な仕事でも少ししかお金がもらえないことが分かって、お金のありがたさや母への感謝が芽生えた。母は、私たちを笑顔にするため、「疲れた」「しんどい」とかは言わなかった。母には、年を取ったらゆっくり休んでほしい。優しい気持ちで母のお世話をしてあげたい。こ

れは恩返しではない。恩はいくら返しても返しきれないくらいたくさんもらったから。

家族を支えるため出稼ぎへ

Q.高校卒業後の進路は？
プ：大学でメイクアップ(美容)の勉強がしたかった。インドネシアでは結婚式の時などに、すごく化粧をする。でも、村(西スマトラ州タランバング地区タラタジャラン村)にはメイクができる人がいないから、勉強したいと思った。それに、私がメイクを母に教えてあげたら、母もメイクの仕事ができるようになるから、いいと思った。メイクは家の中でできる仕事だから。でも、大学の学費は高い。妹と弟はまだ学校に行っていたし、母も年を取ってだんだん弱くなっていく。もし母が働けなくなったら、弟と妹が学校に行けなくなると思った。だから自分は大学には行かずに働くことにした。

Q.どこで働いたの？
プ：姉がプキティンギ^{*1}で洋裁の仕事をしていて、でも結婚して仕事を辞めることになったので、姉が私を紹介してくれた。最初はアイロンがけをしていて、アイロンの仕事がない時に、縫う仕事をした。村では洋裁をしたことがなかったので、縫うのは初めてだった。

*1：西スマトラ州ソロ郡の小さな高原都市。プットリさんの出身地タラタジャラン村からは車で約5時間かかる。

*2：研修生の村の水田は深いところもあり、膝上から胸まで沈むことがある。苗と肥料を舟のような器に浮かせて田植えを行う。タラタジャラン村は標高約1,100mに位置し、朝晩は冷え込むため、水の中での農作業は過酷である。

左上写真/田植えをするタランバングの女性たち。
右上写真/プットリさん(左)と彼女の母親(中央)、姉(右)。
左下写真/プキティンギの洋服店にて。西スマトラ州の避暑地として有名な同市は服飾産業が発展している。
右下写真/洋裁の専門家畑中さん(右)の講習を受けるプットリさん(左奥)と国内研修生の山本さん(左手前)。

Q.仕事で大変だったこと、楽しかったことは？

プ：大変だったのは、ラマダンなどの時。たくさん洋服を作るからとても忙しかった。朝9時頃から仕事を始めて、ご飯を食べたり、休憩したりして、次の日の朝まで寝ないで働いた。楽しかったのは友だちがいたこと。7～8人くらいが職場で一緒に寝たり、ご飯を食べたりしていた。

将来の夢を携え、日本へ

Q.PHDの面接の話があった時、どういう気持ちだった？
プ：その時の縫製工場の私の仕事はズーッと縫うだけ。ズーッと。採寸とか裁断はしない。だから、PHDの研修のことを聞いた時、「縫製工場ですと縫い続けるのはどうかなあ」と考えた。私は大学に行かなかったから、日本で研修を受けることはいい経験になると思った。

Q.将来のことを色々と考えていた？
プ：はい。私たちの家には以前、電気がなかった。近所のマスラルさん(23期研修生)の家から電気をもらっていた。でも、電気が弱いたのでたくさん使うことはできない。だから、私と姉でお金を払って電気をたくさん使えるようにした。電気があれば、洋服とかを縫うこ

とができる。それに、お金を少しずつ貯めて、お店を買ったりできると考えていた。

Q.村に帰ってからやりたいことは？
プ：村の次世代のため、そして健康のために、村の女性に洋裁を教える、「体に優しい仕事」を作りたい。まず、組合の人たちと集まって、自分が作った服や小物を見せて、洋裁の勉強をしたい人がいるか、洋裁の何を勉強したいかを聞く。それから、教える。洋服は難しいから、まずはエプロンや袋などの簡単な物を作るところから始めたい。

Q.洋裁の仕事はどうして女性にとっていいの？
プ：洋裁は体を使う仕事だけれど、頭も使う。デザインなど色々なアイデアが出る。それに、家の中でできるので、子どもの世話をしたり、ご飯を作ったりできる。

農業の仕事は、例えば田んぼで胸のあたりまで水に入る^{*2}。朝は田んぼの水が冷たいので、足が冷えて痺れる。足の裏を怪我したり、爪の中に泥が入ったりして病気になることもある。農業で体に負担がかかって、病気になる女性がたくさんいる。だから、私が村の女性たちに洋裁を教える、体に優しい仕事を作りたい。それがきっと村のためになると信じている。



PHD News

◆ 事務所移転のお知らせ

2014年10月に元町商店街より、現在の兵庫県庁近くの中央区山本通の山手タワーズに移転して以来、5年余り経ちました。その間、研修生は18名、国内研修生は8名が巣立ち、スタッフ一同にとって、とても思い出深い事務所となりました。この現在の事務所から、2020年の初夏を目途に新長田に事務所を移転します。詳細は次号にてご報告させていただきます。

新・事務所住所：神戸市長田区神楽町

◆ 寄付寄贈者会員一覧廃止のお知らせ

これまで会報に同封していました寄付寄贈者及び会員一覧（タイトル：「ご協力いただいた方々のご芳名」）を理事会での決議に基づき、今号より廃止させていただきます。

目的は個人情報保護と第三者への漏洩を避けるためです。また、これまで「事業報告」に掲載していました会費納入者名簿につきましても、同様の理由により、次号2019年度版より廃止します。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

2020年度 来日報告会のご案内

2020年4月上旬に来日する38期研修生たちの来日報告会を行う予定です。1年の学びへの抱負、村での生活の様子などを発表させていただきます。お誘いあわせの上、ご参加ください。

日時：2020年6月6日（土）14：00～16：00
場所：神戸市内予定。（お手数ですが、PHD協会事務局までお問い合わせください。）

※新型コロナウイルスの影響により、変更の可能性あります。

Tel：078-414-7750（PHD協会事務局）

資料代：300円



今の事務所の良いところ、悪いところ ○月×日のPHD協会

八木 良い点：心地よい昼寝。昼食後に30～40分が日課だが、PHDコタツが最高。約20年の社会人生活でベストはPHDか総武線。

山本 良い点：神戸の良い眺め。仕事で行き詰った時、研修生と虹を見て救われる。でも、ネパールでは不幸の兆しだとか？（未確認）

坂西 良い点：六階にあること。EVは使わずに階段派。冬でも体が温まり、ささやかな運動に。研修生と駆け上がり競争、なぜか毎年の恒例行事。

中村 悪い点：普段はお客さん用にスリッパを用意しているが、時々出し忘れる。急いで出すと靴箱の扉が「ギギッー」と凄い音。なんかすいません。

以上、新長田からの距離順。



PHD
2021
40th
Anniversary

2021年PHD協会は創立40周年